



コミュにゃん

コミュニティ・スクール通信 NO.12

～ 令和5年度二中ゾーンの取組み～

発行/令和5年7月

発行者/学校教育課

担当/地域学校連携支援マネージャー石谷

狛江市におけるコミュニティ・スクール（CS）は2年目を迎えました。今年度も、その活動や推進の様子を「コミュニティ・スクール通信」と題して、分かりやすくお知らせします。

二中ゾーン学校運営協議会の新しい取組み

二中ゾーンは、2年目となる今年度、「コミュニティ・スクールに対する教職員の理解の深化を図りコミュニティ・スクールを活用した小中連携を強化する」に重点を置きました。実質的なゾーン内の交流を展開していくためにどのように進めるかを探るなか、教職員のコミュニティ・スクールへの意識向上とゾーンの組織再編に目を向けたことによります。

小中連携の推進・強化は、狛江市がゾーンでコミュニティ・スクールを始めた大きな目的の一つです。立ち上げからわずか1年で、音楽の小中交流など新しい取組みを積極的に進めてきた二中ゾーンです。しかし、教職員全体を見渡せば、コミュニティ・スクールとは何かを十分に理解できていない様子も見られたため、課題意識をもってこれらを払拭することでなお一層の小中連携、コミュニティ・スクール事業を進めようとしています。

そこで、3回ある学校運営協議会で二中ゾーンのすべての教職員が集い、「小中連携について考える」「コミュニティ・スクールについて学ぶ」「取組みの情報交換をする」ことにしました。すでに2回の学校運営協議会が実施されていますが、これは、以前からある「小中連携の日」が年3回実施されると捉えることもでき、まさに「ゾーンによる小中連携強化」にも繋がると思われます。コミュニティ・スクールを活用した取組みが、さらに活性化されるとが期待されます。

昨年度は、グループ討議による、「ゾーンの特色」などを熟議しました。



コミュニティ・スクールの周知には何が必要かを、昨年度末から検討してきました。

二中ゾーンの中小全教職員が集まり、狛江市のコミュニティ・スクールの基本を学び、小中連携を考えました。

2回目の学校運営協議会では、小学校の授業公開を行い協議会をしたのち、分科会にて小中で共通して取り組む目標を設定しました。



全体会后、先生方は「生活指導」「情報」「総合・研究」「特活」「かけはし」「外国語」「教務」「特別支援」「道徳」の分科会に分かれ、小中連携のための各校の取組みの共有を図りました。分科会は、2回目でも、質の高い話し合いを深化させていました。

小中連携の強化は、ゾーンごとに学校運営協議会を置いてコミュニティ・スクールを始めた狛江市のねらいそのものです。1年かけて熟議を交わした「地域の特色」を生かした教育活動が、今後小中連携のもと、展開していく形になります。